

SHIMANE UNIVERSITY LIBRARY

Annual Report

2010

島根大学附属図書館年報



附属図書館の現在と未来

ここにまとめたのは、2010(平成22)年度の附属図書館の活動等に関する報告です。図書を収蔵し、閲覧に供するという伝統的な図書館像の枠に収まらない、多岐にわたる活動の実態を理解していただく内容であることを期しています。

大学における図書館の位置づけが、学生の学修や教職員の学術研究活動を支える知的拠点であることは言うまでもありませんが、その手段・方法は著しく変化してきました。パソコン41台を備えた情報メディアルームの存在や、OPACによる蔵書検索システムの端末が閲覧室に点在するのはその端的なあらわれで、オンラインの電子ジャーナルやデータベースの導入は、学術情報の提供方法を一新しました。われわれが学生時代に抱いていた、カードボックスと薄暗い閲覧室に象徴される大学図書館は、もはや遠いむかしのものです。

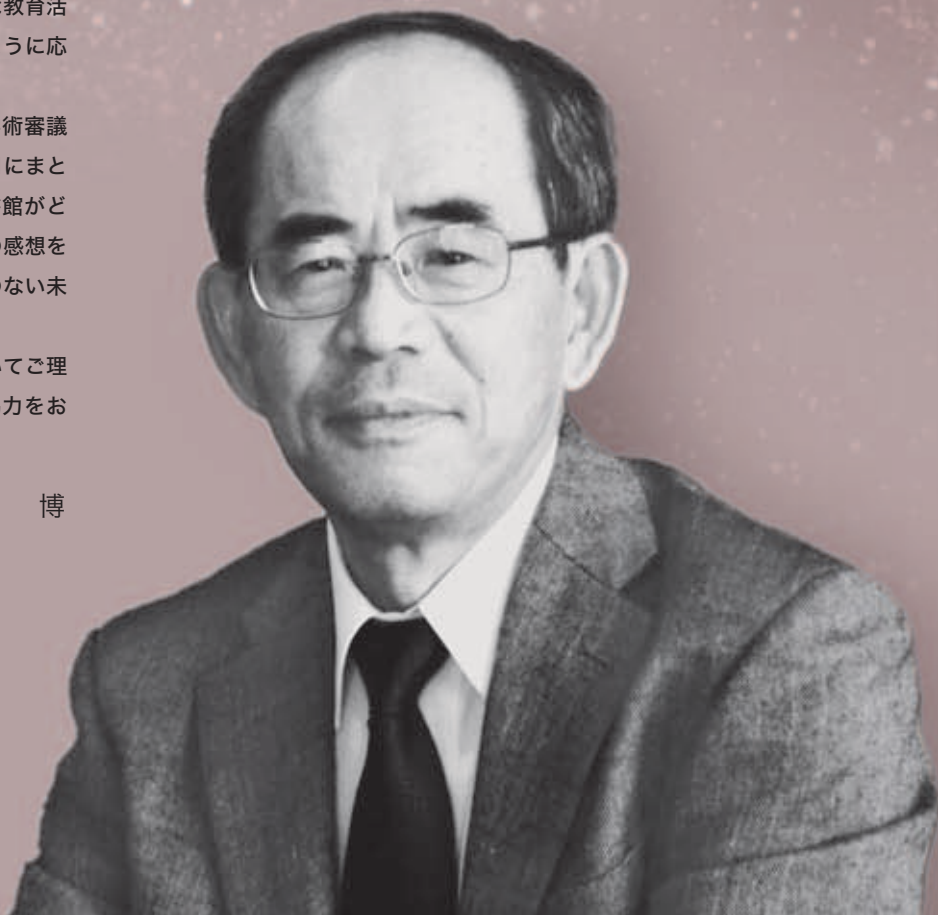
しかし、図書館の果たすべき機能の本質が変化したわけではありません。学生や教員が必要とする図書の閲覧・貸出というような基本的なサービス業務はもとより、雑誌の受入、整理をとおしての学術情報の提供は怠りなく継続しています。古典籍や古文書など、貴重な学術資料の適切な保存・管理の役割は、今後とも重要性が増すことはあっても減じることはないでしょう。

大学教育の変化にともなって、初年次教育やキャリア教育への一定の対応を行ってきましたが、今後はより実質的な教育活動への関与がもとめられる可能性もあり、それにどのように応じるかは将来の課題となります。

折しも、大学図書館の在り方についての科学技術・学術審議会の報告『大学図書館の整備について』が平成22年12月にまとめられました。さまざまな環境変化のなかで、大学図書館がどのようにあるべきかについて提言したものです。読後の感想を率直に言えば、「今後ますます厳しい」としか言いようのない未来像が見えてきます。

ともあれ、本報告をとおして附属図書館の現状についてご理解いただき、大学全体からの引き続いてのご支援、ご協力をお願いします。

附属図書館長 田 籠 博





Contents

Topics	4
図書館の動向	
・学生協働	8
・教員連携	10
・島根大学の学術情報基盤整備	11
・研究開発室の活動状況	12
・全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクト	13
・社会連携	14
統 計	15
・利用者	16
・貸 出	17
・図 書	18
・雑 誌	20
・電子ジャーナル	21
・図書館資料費／Web サービス	22
・相互協力	24
・講習会	25
図書館日誌／年間刊行物	26
新聞等の報道／組織／人事異動	27

TOPICS

■初年次教育・授業関連図書コーナーオープン

本館内に初年次教育プログラムの授業を中心とした授業関連図書コーナーを新設し、18科目128タイトルの図書を備え付けました。これまで教員からの推薦図書はありましたが、他の図書と同じように配架されていたため、せっかくの推薦が十分に活かされていませんでした。

このコーナーには、既存の雑誌架を利用して授業ごとの棚を設けました。各タイトルごとに複数冊用意し、うち1冊は館内利用のみとしています。図書には授業名や“必読”“推薦”を表すシールを貼付するなど、学生が利用しやすい工夫をしています。また、希望のあった授業には関連する情報を紹介する「情報探索Navi」を作成、提供しました。

【2010年4月】



■図書館マスコットキャラクターの愛称決定

昨年度誕生した図書館マスコットキャラクターの愛称を、学内利用者から募集しました。応募があった中から図書館職員が選考し、それぞれ「みいちゃん」「けんさくくん」「ライム博士」と決定しました。ポスターや館内MAP、利用案内、ニュースレターなどに登場し、活躍しています。

さらに、図書館オリジナルグッズとして「ライム・シールメモ」を作成しました。1枚めくるごとに笑ったり困ったりと表情が変わる愛らしい付箋シールで、図書館ツアーや講習会、イベントなどの参加者に差し上げています。

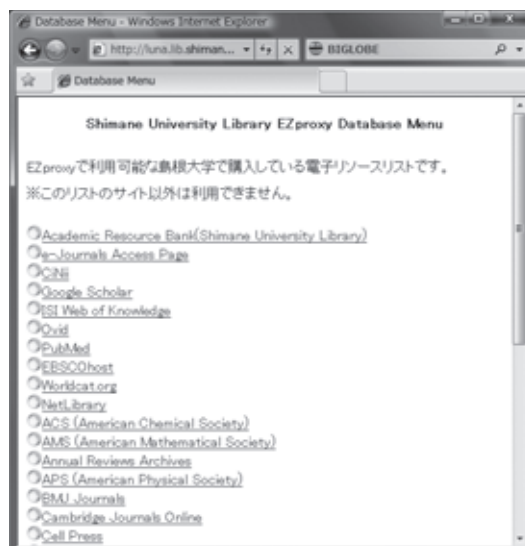
【2010年5月】



■EZproxyサービスを試験公開

島根大学で契約している電子ジャーナル、データベースなどの電子リソースを、自宅や出張先などから利用できるようにするEZproxyサービスの提供を始めました。試験公開の後、2011年6月から本公開しています。図書館ID及びパスワードによる認証を行うことで、インターネット環境があれば学外からでも学内と同様の環境を構築することができます。本学教職員及び学生が対象で、附属図書館HP右下の「リモートアクセス(EZproxy)」から利用できます。

【2010年6月】



■短冊に願いをこめて

七夕祭りは日本の古き良き行事のひとつですが、最近では七夕飾りを見かけることはほとんどありません。そこで7月7日の七夕にあわせて、本館内に笹竹と短冊を用意しました。学生さんに興味を示してもらえるか心配でしたが、写真のように吊るすところがなくなるほどたくさんの願いごとが寄せられました。「恋のお願い」「就職・将来のこと」「部活がんばれ」「やっぱり先立つものは…」などなど。願いを叶えるには、多少の努力も必要です。

【2010年7月】



■館内展示「始まりは旧制松高—附属図書館90年のあゆみ

本館1階展示コーナーにおいて、旧制松江高等学校（松高）と図書館の歴史を紹介する企画展示を開催しました。島根大学の前身校である松高が開校したのは1920年で、今年は90周年にあたります。図書館はその間に2度引っ越しをしました。松高から引き継いだ図書は永らくそのままになっていましたが、このほど和図書の遡及入力が完了、分類番号もラベルも新しくなったのを記念し、90年間で少しか振り返ってみました。パネルによる紹介と、当時の写真や図書館グッズなども探し出して展示しました。

(写真は1960(昭和35)年頃の図書館入口)

【2010年7月】



■図書館コンシェルジュ活動開始

今年度の新たな取り組みとして、図書館コンシェルジュの活動がスタートしました。これは平成22年度島大G P採択事業「図書館コンシェルジュ配置による学習支援—学生協働によるピアサポートが育む学ぶ力—」として実施したものです。募集に対して、9名の学生さんが応募してくれました。

図書館の利用のしかたや資料、学術情報資源の探し方など

学習サポートに携わるとともに、図書の紹介や展示、館内マップや利用案内の作成など、学生目線で考えた図書館サービス改善の活動を行ってくれました。楽しく活動できたとの感想が寄せられましたが、形として残った成果だけでなく、これからの大学生活や卒業後に、この経験が何かしらの役に立ってくれればと願っています。

【2010年10月】



TOPICS

3 館 合 同 企 画

■「異国からみたニッポン」企画展示・講演会開催

島根大学医学図書館、島根県立大学（出雲キャンパス）図書館、出雲市立図書館の3館合同企画として、医学図書館が所蔵する「西東文庫」コレクションを、初めて一般に展示公開しました。

「西東文庫」は、19世紀後半から20世紀後半までの約100年間に、主として欧米諸国で出版された日本文化・日本研究に関する書籍のコレクションで、そこには外国人の目から見た日本人や日本文化などが克明に描かれています。挿絵等がふんだんに掲載されているものも多く、当時の社会状況や民俗習慣を知る上で大変貴重な資料です。講演会・展示会には一般市民など170名の入場者がありました。

【2010年10月】



●展示会

日時：2010(平成22)年10月30日(土)～31日(日)
会場：出雲市立出雲中央図書館

●講演会

日時：2010(平成22)年10月30日(土)
会場：出雲市立出雲中央図書館
講演：「来日外国人のみた明治日本の面影」
(島根県立大学教授 小泉凡)
「日本に向けた異国の目」
(島根大学名誉教授 常松正雄)

パネルディスカッション：「昔のニッポン、今のニッポン」

学 内 共 同 企 画 展 示

■「出雲・石見の人々と近世文学」開催

日本近世文学会島根大学大会事務局との共催で、出雲・石見地方ゆかりの近世文学資料を紹介する企画展示を開催しました。開催期間中は、233名の入場者がありました。

出雲は和歌発祥の地とされるなど、古来より文学にゆかりの深い地域です。展示会では、「収集家」「読者」「作者」とい

う3つの視点により本館所蔵資料を紹介しました。「収集家」では松江市出身の桑原羊次郎氏の収集コレクションである「桑原文庫」を、「読者」では草双紙類を含む熊谷家旧蔵資料や「堀文庫」などを、「作者」では近世出雲・石見地方で書かれた文学資料の中から、実録、地誌、和歌などをとりあげました。

【2010年11月】



●展示会

日時：2010(平成22)年11月17日(水)～23日(火)
会場：島根大学附属図書館 3階会議室



■館内展示「世界の子ども笑顔」写真展によせて

本館1階展示コーナーは、図書館資料の展示だけでなく、学生の成果発表や作品展示の場所としても提供しています。今年度は、学習成果展示「七色八雲」（4月）、留学生のお国自慢紹介（11月）、そしてこの「世界の子ども笑顔展」（12月）を開催しました。子どもたちの屈託のない笑顔からは、戦争や貧困、飢餓に苦しむ国にあって、精いっぱい明るく生きようとする姿が伝わってきます。

ちょうどクリスマスシーズンでもあり、手作りのリースやヒイラギ、そして窓には一面に雪を降らせるなど、図書館職員も一緒になってデコレー

ションを楽しみました。年末には期間限定で、クリスマス・イルミネーションを灯しました。

【2010年12月】



■ラウンジでどう過ごす？

本館玄関ホールのレイアウトを変更し、新聞閲覧コーナーだった場所にラウンジを設けました。数人で集まって勉強したり、新聞を読んだり、授業の合間のちょっとした休憩に利用できます。また、このスペースに限り、周りの迷惑にならない程度の携帯電話の使用と、こぼれる心配のない蓋つきの飲み物はOKとしました。図書館といえば「館内では静粛に」が当たり前でしたが、利用者のニーズは徐々に変化しています。静かにすべき場所では静かに、しかし賑やかさや活気を感じられ、つい長居したくなるようなスペースが、今後は求められていくのではないのでしょうか。

【2010年12月】



■『ニューオーリンズとラフカディオ・ハーン』刊行によせて

附属図書館編集による『ニューオーリンズとラフカディオ・ハーン —「死者たちの町」が生む文化混濁の想像力—』を3月3日に刊行しました。来日後の小泉八雲としての創作活動は多くの方に知られていますが、本書は来日前、アメリカ・ニューオーリンズで新聞記者をしていた時代のハーンを取り上げたものです。学術的な内容をもつ一方で、観光ガイドには載っていないニューオーリンズの知られざる一面を紹介しており、一般の方でも面白く読むことができます。また、ハーンが書いた挿絵入り記事の翻訳に、コラム風の解説を付しました。記事や挿絵から、時代背景やニューオーリンズという都市独特の歴史や文化、風俗などを読み取ることができるという、既刊書にはないユニークな内容になっています。

さらに、図書の出版にあわせ、記者会見および本の内容をポイント的に解説したパネル展示「〈死者たちの町〉ニューオーリンズとラフカディオ・ハーン」を開催しました。

【2011年3月】



●記者発表

日時：2011(平成23)年3月15日(火)

会場：島根大学附属図書館 3階会議室

●展示会

日時：2011(平成23)年3月15日(火)～6月5日(日)

場所：本館1階展示コーナー



図書館の動向

■ 学生協働

大学の活動の様々な局面において学生の力を活用する学生協働が多くの大学で取り組まれています。とりわけ、学生が学生をサポートするピアサポートは学生協働の中心を占めるもので、年齢が近い学生の方が気軽に質問できること、サポートする学生の成長も見込まれることから、大きな効果が期待できます。附属図書館では、2010（平成22）年度から“図書館コンシェルジュ”の試行を開始し、これまで取り組んできた学生図書の選書ツアーや選書企画と合わせて、学生協働を図書館のサービス運用の中に意図的に組み込んだ取り組みを始めました。

1. 図書館コンシェルジュ

平成22年度教育改革推進事業《島大G P》として採択されたもので、学生の図書館利用や図書館における学習を学生自身がサポートすることにより、図書館を学生が学び合う場として、また、サポートする学生のキャリア形成支援の場として構築しようとするものです。

学内募集により9名の図書館コンシェルジュを採用しました。活動は10月から翌年1月までの4カ月間で、最初の2週を研修期間としたため、実質的には3カ月半の活動期間となりました。

活動は、1) 図書館利用サポートと、2) 図書館業務サポートの2つを柱として展開しました。

(1) 図書館利用サポート

資料の探し方、文献の検索方法、PCの使い方など、図書館利用全般に関する質問に対してサポートを行います。これまでサービスが手薄だった図書館1階の情報メディアルームと2階閲覧室に、新たなサービスポイントとなるサポートデスクを配置しました。図書を書架に返却する作業をしながらのサポートも行いました。



説明も、ずいぶん上手になりました

<実施状況>

活動可能な日数62日に対して、サポートに入った日数は49日（実施率79%）、活動可能な総コマ数372コマに対して、サポートに入ったコマ数は86コマ（実施率23%）でした。実施率が低かったのは、コンシェルジュの人数が少なかったことに加えて、後述する図書館業務サポートにも時間を割かなければならなかったことによります。

活動期間中に受けた質問件数は98件で、1日当たりの件数は2件、コマ当たりの件数は1.14件でした。質問が少なかった理由として、1) 新設したサポートデスクが、利用者に十分に認知されていなかった、2) サポートに入るコマが不定期で、デスクが不在である時間帯が多かったことなどが考えられます。

(2) 図書館業務サポート

学生の視点で図書館サービスを見つめ直し、自ら改善案を企画し実施しました。これは、日常的に図書館に足を運ばない学生が一定割合存在することを前提に、この企画により図書館に賑わいを創出して、コンシェルジュの周辺にいる学生たちを図書館に呼び込むことをも企図したものです。

1ヵ月毎に実施計画書を作成し、グループまたは個人で計画に基づいて活動しました。主な活動内容は次のとおりです。

- 館内マップ（掲示用・配布用）の作製
- 図書の企画展示
- ブック・コンパス展示
- ライムシートの作製
- 数学の質問箱設置



堂々の館内MAP完成



ブック・コンパス「数学のおススメ本」



ブック・コンパス「同時代小説」



数学の質問箱・数学のおススメ本は予想以上の反響

これらの活動がどの程度、図書館の利用者増をもたらしたかは不明ですが、学生の視点による取り組みが、館内にこれまでにない新鮮さとある種の賑わいを醸し出したことは間違いありません。

(3) 評価と課題

ピアサポートに期待される効果は、質問し易い雰囲気をつくることで、問題解決のきっかけを増やすことができるという点にあります。今回の試行においては質問が少なかったことから、今後の実施に向けては、サポートデスクの位置や広報の在り方などを再検討する必要があります。

一方で、サポートする側であるコンシェルジュの学生にとっては、コミュニケーション能力や企画力、情報リテラシーを身につけるきっかけとなり、キャリア教育上の効果が大きかったと言えます。

2. 学生による図書の選書

学生用図書の整備に際しては、シラバス掲載図書や教員からの推薦図書に加えて、学生の視点や希望を積極的に取り入れています。学生が選書に関わることの意義として、単に学



「これ、おもしろそう」「読みたかったんだよね」



みいなちゃん・けんさくくんのシートは可愛すぎて手離せない

生のニーズに即した図書を整備できるだけでなく、選書体験をとおして蔵書への理解と関心が深まり、図書館の利用促進となること、図書館運営の一端を担うことによるキャリア意識の形成などが挙げられます。

(1) 選書ツアーと選書企画

選書ツアーでは、学生とともに市内書店に出向いて店頭で選書を行います。2005(平成17)年度から毎年実施しており、これまでの6年間で延べ40人の学生が参加し、約750冊の図書を購入了。

また、通年で受け付けている図書リクエストとは別に、テーマやジャンルを決めて期間限定で集中的にリクエストを受け付ける学生選書企画を、2007(平成19)年度から実施しています。

(2) 利用促進

選定した図書は、参加した学生による検討会を開催した後、最終的な購入の可否を決定します。本には「学生選書」の赤いシールを貼り、お薦め図書には手作りのPOPを付けて展示し、学生による選書であることのアピールと利用促進を図っています。



ブック・コンパス「学生選書ツアー2010」の個性的なPOP

図書館の動向

■ 教員連携

附属図書館では、学修支援のため様々な資料や情報を収集し提供していますが、学生の意識を図書館に向け、学修意欲を高めるためには、カリキュラムやシラバスと連動した利用がポイントになります。また、教育支援のためには、教員が図書館に求めているものを把握し、図書館が提供できる資源やサービスを充実させていく必要があります。そのためには図書館と教員の連携が重要と言えます。

1. 授業関連図書の推薦

シラバスに掲載された参考文献の整備を、毎年継続して行っています。シラバスは毎年更新されますが、新規に開設された授業科目や追加された参考文献を事前に連絡してもらうことで、授業開始に間に合うように図書を購入します。

さらに、年度初めに各学科、講座等から、授業に必要な参考図書を推薦してもらいます。推薦がなかった学科には図書館で選定した図書のリストを送り、その中から推薦してもらうなど、できるだけ全分野の図書を購入できるようにしています。

■ 購入実績

本館

年度	購入冊数	金額(千円)
2006*	1,351	4,920
2007	746	2,990
2008	507	2,380
2009	655	2,680
2010	658	2,560

*2006年度は年度初めと年度末の2回

医学図書館

年度	購入冊数	金額(千円)
2006	948	5,060
2007	676	4,340
2008	744	4,480
2009	666	4,820
2010	550	3,910

2. 初年次教育・授業関連図書コーナーの設置

(1) 本館

授業に密着した図書館利用のために、教育開発センターの初年次教育プログラムとの協働プログラムを開始しました。このプログラムの対象となっている授業での必読書、または読んでおいた方がよい図書を推薦してもらい、18の授業科目、128タイトルの推薦図書を揃えた「初年次教育・授業関連図書コーナー」を4月に設置しました。

このコーナーは、学生が利用しやすいように学部名、授業科目名を分かりやすく表示し、図書にも同様のシールを貼付しました。同じ図書を2～3冊用意し、1冊は館内閲覧のみにし、多くの学生が利用できるように工夫しています。また、授業のテーマについて、図書だけでなく、関連する文献や情報の探索方法をA4用紙1枚にまとめた「情報探索Navi」(パスファインダー)を、教員と図書館と共同で作成しました。

このコーナーについては、教育開発センターでもメールマガジン、学科・分野のオリエンテーション等による広報活動を行っています。

今年度からの新たな取り組みでしたが、貸出回数は全体的にそれほど多くありませんでした。今後は、教員による学生の指導と、コーナーの周知が重要と言えます。また、初年次教育プログラム以外の授業科目についてもこのサービスを利用してもらえるよう、教員への説明の機会を増やしていく必要があります。

■ 利用状況 (平成2010年4月～平成2011年3月)

	授業科目数	タイトル数	貸出タイトル数	貸出回数
法文学部	3	24	22	47
教育学部	3	21	9	16
総合理工学部	8	56	23	53
生物資源科学部	4	27	17	54
合計	18	128	71	170

(2) 医学図書館

6月に、看護倫理、看護過程の実習のための参考図書を集めた「看護学科演習・実習コーナー」がオープンしました。これらの図書は基礎看護学講座の教員が選定したもので、90タイトル、107冊あります。

必要な図書をいつでも閲覧できるように全て館内閲覧としているため、貸出はできません。このため、毎年恒例の卒業生謝恩会からの図書寄贈として、今年度は「看護過程」関連図書を贈っていただきました。図書館を介して、教員の思いが学生へと広がっています。

3. 利用講習会

学術情報リテラシー育成のために、様々な利用講習会を開催しています。最近では、教員からの申込みで授業やゼミの時間に内容を指定して行う、オンデマンド講習会が定着してきました。

図書館で日程や内容を決めて開催する講習会は、学生のニーズと合致しないためか参加者が少ないのが現状です。オンデマンド講習会は、教員と事前に打ち合わせを行うことにより、適切な時期に、授業の内容に沿ったデータベースを重点的に取り上げることができます。また、多くの学生に一度に伝えることができるため、大きな効果があります。

年々申込みは増えていますが、まだ全体の一部です。全ての学生が受講できるよう働きかけるとともに、内容の充実や担当者の育成など、実施体制の整備も必要となっています。

■ 島根大学の学術情報基盤整備

—電子ジャーナルの充実に向けて—

本学では2001(平成13)年度から開始した「学術情報基盤整備計画」により、全学的観点から複数の専門分野をカバーする外国雑誌を中心とした電子ジャーナル及び引用文献データベース等の計画的な整備を行っています。全学共通経費を主な財源としたこの整備計画は3年ごとに見直しを行い、「第四期学術情報基盤整備計画(平成22-24年)」として、2011(平成23)年は電子ジャーナル(主要出版社12系列、約9,800誌)に加えて、引用文献データベース、アクセスツール及び文献管理ソフト等が利用できるようになっています。また、専門分野固有の化学系、医学系、工学系など一部のパッケージや個別タイトル約700誌については、部局経費により契約し維持しています。

1. 第四期学術情報基盤整備計画(概要)

■ 基本方針

- 学術情報基盤整備にかかわる電子ジャーナルは、全学的観点から、本学の複数の専門分野をカバーするパッケージとして提供されるジャーナル群を整備する。また、特に共通性が高く重要なジャーナルの数タイトルをコア・ジャーナルとして位置付け整備する。
- 各専門分野のパッケージ及び個別タイトルは、必要とする部局経費で整備する。
- 電子ジャーナル等の学術資源を効率的に活用できるデータベース、アクセス・ツール及び文献管理ソフト等を整備する。
- 必要とする情報へのアクセスが容易で分かりやすく、利用者がこれらのサービスを学外からも利用できる環境整備を推進する。
- 学術情報基盤系のタイトルは戦略的に選定し、共通経費、部局経費、間接経費等を工夫して整備を図る。
- 電子ジャーナル契約は、入念な市場調査とともにコンソーシアム等を活用し経費圧縮に努める。

2. 学術情報基盤整備をすすめる上での課題

電子ジャーナルは、学術出版社の寡占化、独占化による価格高騰により、特に地方の国立大学ではその購入が困難となりつつあります。電子ジャーナルの購入維持については、全国の大学、研究機関でも対応に苦慮しており、個別努力では既に限界にきています。

この問題に対する活動として、SPARC Japan(*1)や機関リポジトリ(*2)などによる学術論文のオープン・アクセス活動も始まっていますが、直ちに効果が期待できる状況にはありません。国家レベルでの戦略的かつ有効な学術情報基盤整備支援策がとられるまで、大学全体で経費を工夫し、タイトルを維持・継続していく必要があります。

*1 SPARC Japanとは、日本の学協会等が刊行する学術雑誌の電子ジャーナルを支援・強化することによって、海外に流出する我が国の優れた研究成果を我が国の研究者自身の手に取り戻し、海外への研究成果発信の一層の普及を推進することを目的として国立情報学研究所が実施している国際学術情報流通基盤整備事業

*2 機関リポジトリとは、研究機関がその知的生産物を電子的形態で集積し保存・公開するために設置する電子アーカイブシステム

■ 提供している電子ジャーナル・データベース等(2011(平成23)年)

		電子ジャーナル/データベース名称
EJパッケージ	1	ScienceDirect (Elsevier)
	2	Springer LINK
	3	Wiley Online Library
	4	Cambridge Online Package
	5	Oxford Online Package
	6	Nature & Research誌
	7	JSTOR : Arts, General Sciences
	8	ProQuest : RL/PHMC
コアEJ	9	ProNAS
	10	Science
	11	Cell
	12	NEJM : New England Journal of Medicine
データベース	13	Web of Knowledge
	14	SwetsWise
	15	Search Solver

図書館の動向

■ 研究開発室の活動状況

附属図書館研究開発室は、図書館の業務に関して専門的な立場から指導、協力を行うとともに、図書館活動に関する研究開発支援を行い、図書館サービスの向上を図ることを目的として2006(平成18)年に設置されました。

2010(平成22)年度は、次の活動を行いました。

1. コレクションの収集・構築

- 小泉八雲関連資料（本館）として、縮刷本や稀覯本などを購入
- 華岡随賢より大森加膳宛の書付等6点を、大森文庫（医学図書館）として新たに寄附受入

2. 未整理資料の目録作成

- 林家文書（本館）の未整理分の目録作成
- 松尾家史料（医学図書館）の目録作成及び主要な医学書の一部を電子化

3. 独自データベースの構築

- ハーンデータベースについて、新規データの収集・調査などの準備作業
- 島根師範学校時代から収集されてきた未整理の教科書資料（江戸時代の往来物、明治、大正、昭和の教科書等約2万点）の簡易目録データ登録を昨年度に引き続き実施し、5,814点を登録。昨年度分と合わせると11,806点で、残りは約8,700点

4. 電子化及びデジタル・アーカイブの充実

- 桑原文庫（本館）256点、堀文庫（本館）54点を電子化
- 松江市教育委員会との連携により、明治・大正期の新聞マイクロ資料（本館）652点を電子化
- 大森文庫（医学図書館）の電子化
- 手銭記念館（出雲市）の和古書42点の電子化
- 小林家（出雲市）、松本家（益田市）所蔵史料を電子化し、デジタル・アーカイブ掲載に向け準備中

5. 成果公開 — 図書出版 —

- 2008(平成20)年度に開催した企画展示・シンポジウム「アメリカのラフカディオ」の成果出版として、図書館、学内外のハーン研究者及び地域出版社との連携により、米国ニューオーリンズ時代の新聞記者ハーンと、その執筆記事を素材とした『ニューオーリンズとラフカディオ・ハーン』を刊行

6. 成果公開 — 講演会・展示会 —

- 「ハーンの神在月—松江サミット」（10月9日～10日・松江市総合文化センター）において、八雲文庫室及びハーンプロジェクトについて紹介

- 第15回認知神経学会学術集会（7月17日～18日・松江テルサ）において、大森文庫史料等を展示
- 出雲市内3図書館合同企画展示・講演会「〈異国〉からみたニッポン」を開催し、併せてパンフレット「西東文庫」を発行

7. 資料保存対策

- CO₂殺虫バッグ「ふくろうくん」を購入し、所蔵資料及び新規受入資料の殺虫処理を継続して行える環境を整備
- 防虫及び資料保存対策のため、本館貴重資料室に専用防虫シートを設置するとともに、中性紙の保存箱を購入
- 劣化が著しい本館マイクロ資料の一部について、複製を作成
- 医学図書館大森文庫室内の資料と研究開発室で作業中の資料について、殺虫・殺菌のため部屋全体の燻蒸処理を実施
- 西東文庫（医学図書館）のうち、劣化の進んだ資料の修理製本を実施

室員名簿 2010(平成22)年度

所 属	氏 名
室 長 (附属図書館長)	平 川 正 人
(1) 和古書・漢籍・記録史料	
法文学部教授	蘆 田 耕 一
法文学部教授	田 中 則 雄
法文学部教授	要 木 純 一
法文学部教授	竹 永 三 男
法文学部准教授	小 林 准 士
島根大学名誉教授	松 尾 寿
島根大学名誉教授	下 房 俊 一
(2) ラフカディオ・ハーン (小泉八雲)	
教育学部教授	高 瀬 彰 典
法文学部教授	長 岡 真 吾
島根大学名誉教授	常 松 正 雄
(3) 古医書・西東文庫	
医学図書館長	富 岡 治 明
医学部附属病院長	小 林 祥 泰
医学部教授	小 林 裕 太
医学部教授	岩 田 淳
外国語教育センター准教授	大 島 カレン
(4) 教科書データベース	
教育学部教授	権 藤 誠 剛
教育学部教授	森 本 直 人
(5) 電子図書館推進	
附属図書館長	平 川 正 人
法文学部教授	野 田 哲 夫
教育学部教授	森 本 直 人

■全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクト

このプロジェクトは、平成20-21年度国立情報学研究所CSⅠ委託事業「遺跡リポジトリの構築：中国5県域から広域連携へ」から発展し、平成22-24年度委託事業（領域2）「全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクト」として採択されたもので、発掘調査報告書のリポジトリ・システムによる公開を全国に普及させることを目指しています。

1. 目的

発掘調査報告書は考古学分野の教育、研究における基本資料ですが、冊子で限定的に発行されるため、入手の難しい資料となっていました。このプロジェクトにより、各都道府県ごとに大学と自治体が連携することにより発掘調査報告書の電子化を推進し、電子的な保存と公開を行うことで、研究者をはじめ、考古学分野に関心のある一般の方々などの利活用が期待されます。

2. 活動状況

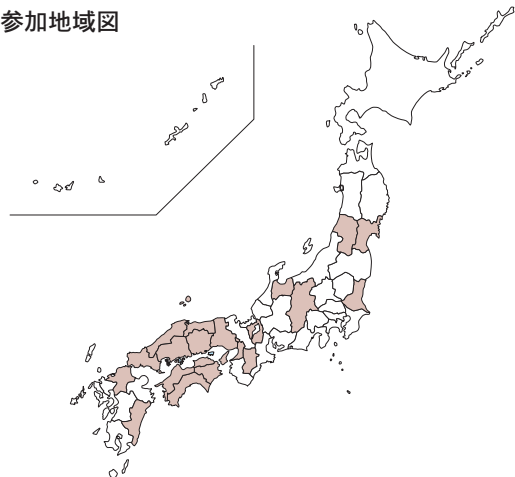
今年度より推進体制を整備し、「企画・広報部会」「システム部会」「コンテンツ部会」による活動を行っています。

(1) 企画・広報部会

新規に8大学の参加を得て20大学へと拡大し、12月17日には大阪大学を会場として「全国遺跡資料リポジトリ・オープンカンファレンス」を開催しました。大学担当者をはじめ、研究者・大学院生・自治体関係者など81名の参加があり、発掘調査報告書の電子化と公開、プロジェクトの今後の方向性について、活発な議論が展開されました。



■参加地域図



(2) システム部会

新規参加大学向けに、国立情報学研究所の共同サーバ上にクラウドモデルの遺跡資料リポジトリの構築を行いました。プロジェクトに参加するためのシステム管理の軽減に繋がりと、参加しやすいモデルの提案を行うことができます。また、データ登録やPDFサムネイルの表示等、閲覧インターフェースの改良も行っています。

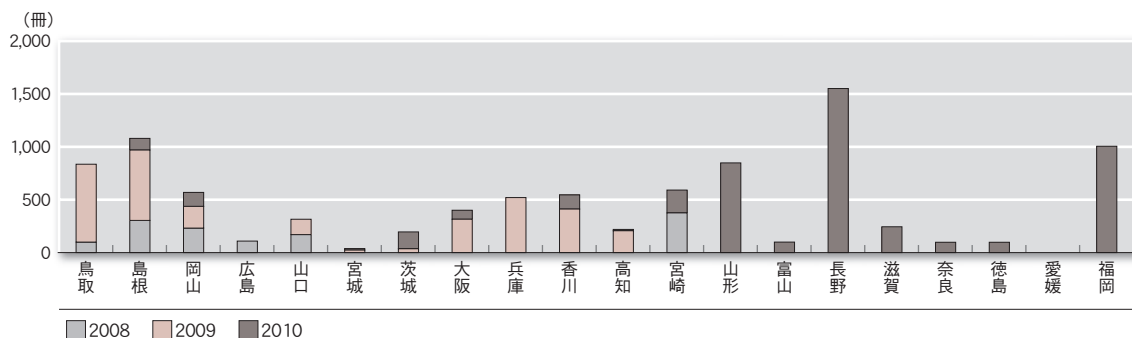
(3) コンテンツ部会

科学研究費補助金とCSⅠ事業費により、2,970冊(347,127頁)の電子化を行うことができました。また、福岡市と山形県から、それぞれ1,013冊と850冊の電子ファイルの提供を受けました。これにより2008年度からの累計で、過去に出版された報告書の6分の1にあたる、9千冊を超える電子化が行われたこととなります。

3. 島根県内の状況

松江市等の協力により、未収集だった津和野町など120冊の電子化を終え、県内の殆どの資料の電子化を終了することができました。

■参加地域の電子化状況



図書館の動向

■社会連携

大学図書館と地域の図書館が連携し、より良いサービスを目指してネットワークを構築しています。2009(平成21)年度から始まった物流システムも定着し、地域図書館からの貸出依頼が増加しています。また、医学図書館で整理を開始した「西東文庫」の企画展示、地域所蔵資料のデジタル・アーカイブへの登録、公開など、地域と連携しながら、学術資料による社会貢献を継続して行っています。

1. 合同企画展示・講演会の開催

●展示会

「出雲・石見の人々と近世文学」

日本近世文学学会が島根大学で開催されるのに伴い、学会事務局との共催で開催しました。

会場には「収集家」「読者」「作者」という3つのコーナーを設け、本館所蔵の近世文学関連の資料を紹介しました。また、昨年度の企画展示会で好評だった出雲・石見地方の国絵図などもあわせて展示しました。

日時：2010(平成22)年11月17日(水)～23日(火)

会場：島根大学附属図書館 3階会議室

●展示会・講演会

「〈異国〉からみたニッポン

—西東文庫をもとに—

島根大学医学図書館、島根県立大学（出雲キャンパス）図書館、出雲市立図書館の3館合同企画として、医学図書館が所蔵する「西東文庫」コレクションを初公開しました。

展示に先立って行われた講演会では、文庫の整理を担当した常松島根大学名誉教授から、資料の内容や特徴についての解説がありました。

日時：2010(平成22)年10月30日(土) 展示会は31日(日)まで

会場：出雲市立出雲中央図書館

講演：「来日外国人のみた明治日本の面影」

(島根県立大学教授 小泉凡)

「日本に向けた異国の目」

(島根大学名誉教授 常松正雄)

パネルディスカッション：「昔のニッポン、今のニッポン」

2. 物流による相互貸借

島根県立図書館の配送便による相互貸借システムが2009(平成21)年10月より稼働し、県内の公共図書館を含めた図書館の貸借ができるようになってきました。このサービスが徐々に浸透し、今年度は公共図書館からの貸出依頼が増加しました。(下表参照)

3. 島根県大学・高等専門学校図書館協議会

島根県内の高等教育機関の図書館が相互に連携し、各館の充実・発展とサービス向上を目指しています。総会は隔年で開催されるため、今年度は職員研修会のみ開催されました。(公立大学協会図書館協議会中国四国地区協議会との共催)

●職員研修会

日時：2010(平成22)年9月16日(木)～17日(金)

会場：島根県立大学(浜田キャンパス) メディアセンター

テーマ：「図書館創造計画 —利用者としての学生・サポーターとしての学生と向き合う—」

4. デジタルコンテンツの登録・公開

桑原文庫256点をはじめとする本学貴重資料のほか、地域の個人蔵の資料についても電子化を行いました。また、新聞マイクロ資料652点については、松江市教育委員会との連携により電子化することができました。これらのコンテンツのうち、公開可能なものはデジタル・アーカイブシステムで公開しています。

地域の個人や所蔵機関と連携し、貴重資料の掘り起こし、整理、保存、そして教育・研究への利用促進を進めています。

■相互貸借冊数

	貸出冊数			借受冊数		
	2008	2009	2010	2008	2009	2010
島根県立大学(浜田)*	—	—	—	—	—	—
島根県立大学(松江)	13	6	7	1	1	3
島根県立大学(出雲)	0	0	0	0	0	0
松江高専	7	11	10	0	0	1
島根県立図書館	12	5	7	20	23	25
県立以外の公共図書館	12	22	94	5	6	3
合計	47	44	118	29	30	32

*島根県立大学(浜田)は、ILLにより対応している。

統計

2010(平成22)年度データ

2010 Data

		本館 (松江キャンパス)	医学図書館 (出雲キャンパス)	合 計	
開 館 日 数	平 日	232	238		
	土・日・祝 日	76	110		
	合 計	308	348		
利 用 対 象 者 数 (平成23年5月1日現在)	教 職 員	2,397		2,397	
	学 生	5,133	1,087	6,220	
	学 外 者	492	95	587	
	合 計			9,204	
入 館 者 数	学 生・教 職 員	308,935	201,531	510,466	
	学 外 者	11,247	581	11,828	
	合 計	320,182	202,112	522,294	
貸 出 冊 数	学 生	44,274	12,205	56,479	
	教 職 員	4,018	1,315	5,333	
	学 外 者	2,019	612	2,631	
	合 計	50,311	14,132	64,443	
蔵 書 冊 数 (平成23年3月31日現在)	和 漢 書	607,741	66,163	673,904	
	洋 書	152,090	55,660	207,750	
	合 計	759,831	121,823	881,654	
図 書 受 入 冊 数	和漢書	購 入	7,681	1,731	9,412
		寄贈・その他	3,817	242	4,059
		計	11,498	1,973	13,471
	洋 書	購 入	567	370	937
		寄贈・その他	1,545	31	1,576
		計	2,112	401	2,513
	合 計		13,610	2,374	15,984
雑 誌 所 蔵 種 類 数	和 雑 誌	8,526	2,228	10,754	
	洋 雑 誌	3,119	1,711	4,830	
	合 計	11,645	3,939	15,584	
雑 誌 受 入 種 類 数	和雑誌	購 入	580	201	781
		寄贈・その他	1,281	272	1,553
		計	1,861	473	2,334
	洋雑誌	購 入	204	61	265
		寄贈・その他	63	66	129
		計	267	127	394
	合 計		2,128	600	2,728
資 料 費 (千円)	学 生 用 図 書	15,376	5,306	20,682	
	雑 誌	5,920	3,617	9,537	
	小 計	21,296	8,923	30,219	
	デ ー タ ベ ー ス	8,893		8,893	
	電 子 ジャ ー ナ ル	89,590		89,590	
	合 計	128,702			
文 献 複 写 件 数	受 付	1,243	1,994	3,237	
	国 内 依 頼	3,954	1,950	5,904	
	海 外 依 頼	12	2	14	
現 物 貸 借 件 数	貸 出	250	9	259	
	借 受	600	21	621	

統計

利用者

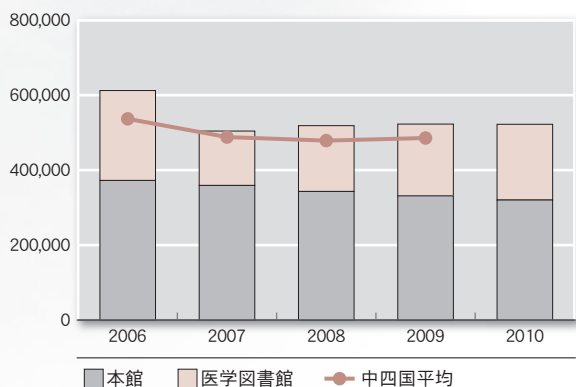
In-Library Users

■入館者数

		2006	2007	2008	2009	2010
本館	学生・教職員	361,486	350,163	333,097	320,458	308,935
	学外者	11,001	9,017	10,033	10,846	11,247
	小計	372,487	359,180	343,130	331,304	320,182
医学図書館	学生・教職員	239,307	144,703	175,151	191,149	201,531
	学外者	535	323	374	405	581
	小計	239,842	145,026	175,525	191,554	202,112
合計		612,329	504,206	518,655	522,858	522,294

※医学図書館は、2007年度に耐震・改修工事を行ったため、8月～12月の開館時間外特別利用を中止した。

■入館者数の推移



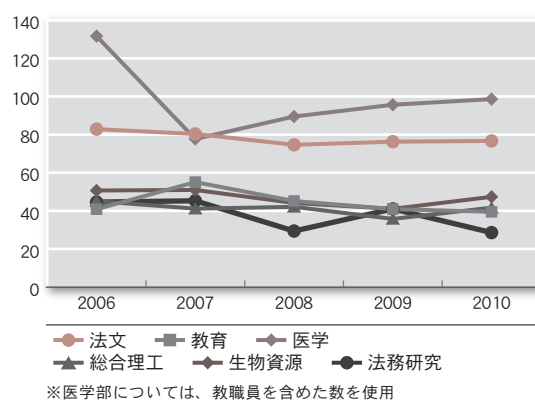
※中四国平均は、「日本の図書館：統計と名簿」（日本図書館協会編）に掲載の中国四国地区国立大学のうち、島根大学と同規模校（学部数2～7学部）7校（広島・岡山・鳴門教育大学を除く）の平均値を用いた。（以下同様）

総入館者数は、近年横ばいの傾向を示しています。キャンパス別に見ると、本館では微減となり、医学図書館では微増となりました。本館では前期、減少傾向だったものの、図書館コンシェルジュの活動が始まった後期は、昨年度に比べて増加しました。

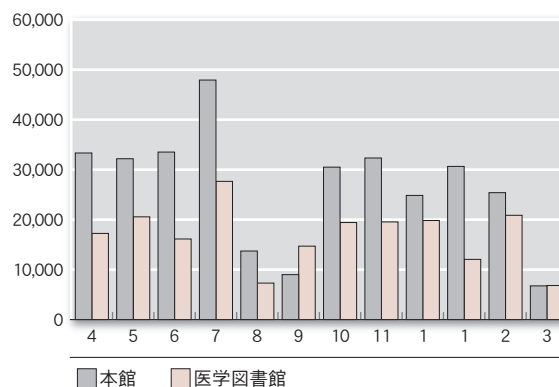
学生の入館回数を見てみると、本館では、法文学部が他学部比に倍の利用となっています。医学図書館は耐震・改修工事のあった年に落ち込みましたが、徐々に持ち直してきています。

本館では学生の図書館利用頻度を昨年から調べています。入館ゼロの比率が昨年の6%から11%になった一方で、週3～4日以上の利用者も6%から12%に増えており、利用する人とならない人の差が大きくなってきているようです。

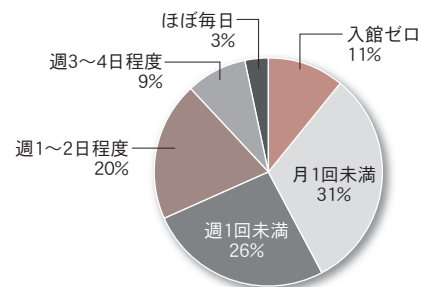
■学生1人あたりの年間平均入館回数



■月別入館者数



■学生の図書館利用頻度（本館）

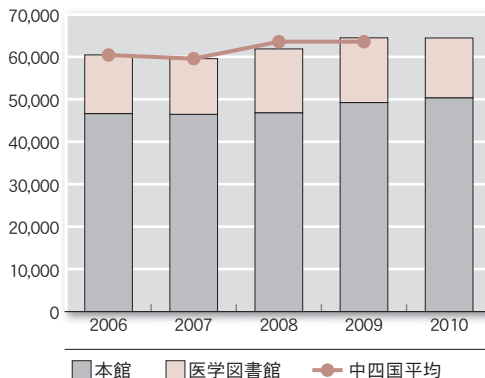


貸出 Circulation

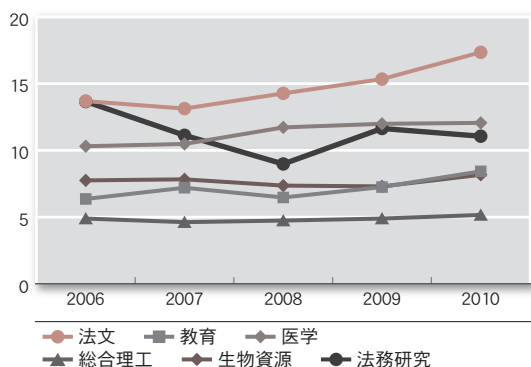
■貸出冊数

		2006	2007	2008	2009	2010
本館	学生	42,022	41,198	41,095	42,711	44,274
	教職員	2,770	3,257	3,814	4,209	4,018
	学外者	1,820	1,983	1,888	2,295	2,019
	小計	46,612	46,438	46,797	49,215	50,311
医学図書館	学生	9,469	9,662	11,429	11,717	12,205
	教職員	3,498	2,928	3,106	3,048	1,315
	学外者	879	539	536	501	612
	小計	13,846	13,129	15,071	15,266	14,132
合計	60,458	59,567	61,868	64,481	64,443	

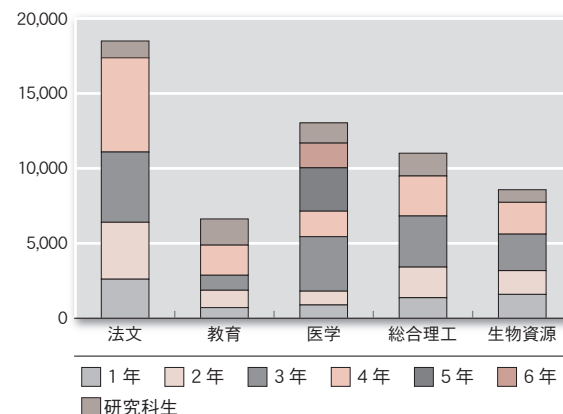
■貸出冊数の推移



■学生 1 人あたりの年間平均貸出冊数



■学部別／学年別貸出冊数



■本館貸出ベスト

分類	書名等
437	ボルハルト・ショアー現代有機化学. (上)(下)
377.9	内定者はこう選んだ!業界選び・仕事選び… / 坂本直文著
327.079	民法120選 / 新保義隆, Wセミナー編著
327.079	憲法120選 / 新保義隆, Wセミナー編著
415.2	解いてみよう位相空間 / 大田春外著
317.4	1週間で書ける!!公務員合格作文 / 中村一樹著
324	総則・物権総論 / 内田貴著
331	入門マクロ経済学 / 中谷巖著
411.3	弱点克服大学生の線形代数 / 江川博康著
420.8	量子力学 / 原田勲, 杉山忠男著
437	ボルハルト・ショアー現代有機化学問題の解き方

*小説類を除く

■医学図書館貸出ベスト

分類	書名等
WO100	標準外科学 / 北島政樹 [ほか] 編集
QS4	イラスト解剖学 / 松村謙児著
WE168	標準整形外科学 / 中村利孝 [ほか] 編集
QY4	異常値の出るメカニズム / 河合忠 [ほか] 編集
QY4	検査結果の読み方, 考え方 / 北村 聖編集
QZ4	病理組織の見方と鑑別診断 / 松原修 [ほか] 編
WB100	循環器 / 医療情報科学研究所編
WB100	呼吸器 / 医療情報科学研究所編
WH100	血液 / 医療情報科学研究所編
WN100	標準放射線医学 / 中田肇 [ほか] 編集
WO200	標準麻酔科学 / 弓削孟文, 古家仁編

貸出冊数は、わずかずつですが増加傾向にあります。内訳を見ると、学生は伸びていますが教職員の貸出が減っており、電子ブックや電子ジャーナルなどの利用も関係していると考えられます。

学部別の貸出冊数は特に法文学部と教育学部で増加しており、他学部は横ばい傾向です。法文学部には学科資料室もありますが、図書館の資料もよく利用されているようです。また、学年が進むごとに貸出冊数も増えています。

総合理工学部は、総貸出冊数では1万冊を超えています。学生数が多いため1人あたりの貸出冊数は低くなっています。特定の資料がよく利用されるのが特徴です。

医学部で3年生と5年生の利用が多いのは、カリキュラムの影響と思われる。

統計

■ 図書

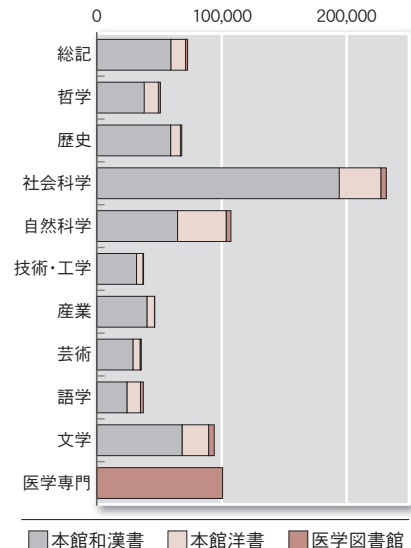
Books

■ 蔵書冊数（分類別）

2011年3月31日現在

	本館			医学図書館	合計
	和漢書	洋書	小計		
000 総記	59,205	11,761	70,966	1,674	72,640
100 哲学	37,897	11,340	49,237	1,619	50,856
200 歴史	59,055	7,837	66,892	1,073	67,965
300 社会科学	194,055	33,261	227,316	4,413	231,729
400 自然科学	64,587	38,919	103,506	3,825	107,331
500 技術・工学	31,745	5,095	36,840	554	37,394
600 産業	40,081	6,031	46,112	254	46,366
700 芸術	28,852	5,751	34,603	919	35,522
800 語学	24,068	10,848	34,916	2,288	37,204
900 文学	68,197	21,246	89,443	4,537	93,980
医学専門	0	0	0	100,667	100,667
合計	607,742	152,089	759,831	121,823	881,654

分類別蔵書冊数では、研究室を含む全学の所蔵傾向を見ることができます。本館では、出版される点数も影響してか、社会科学系の資料の割合が非常に大きく、医学図書館では、当然のことながら医学専門書の割合が非常に大きいのがわかります。



■ 受入冊数

		2006	2007	2008	2009	2010	
本館	和漢書	購入	8,231	6,940	7,083	8,846	7,681
		寄贈・その他	2,598	3,495	3,210	4,743	3,817
		計	10,829	10,435	10,293	13,589	11,498
	洋書	購入	550	518	325	941	567
		寄贈・その他	373	533	505	259	1,545
		計	923	1,051	830	1,200	2,112
小計	11,752	11,486	11,123	14,789	13,610		
医学図書館	和漢書	購入	1,660	1,490	1,647	1,370	1,731
		寄贈・その他	667	509	293	505	242
		計	2,327	1,999	1,940	1,875	1,973
	洋書	購入	956	669	560	286	370
		寄贈・その他	34	68	22	35	31
		計	990	737	582	321	401
小計	3,317	2,736	2,522	2,196	2,374		
合計	15,069	14,222	13,645	16,985	15,984		

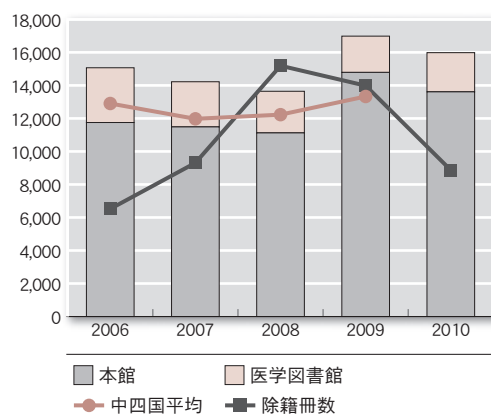
受入冊数を見てみると、本館では寄贈資料など、入手しにくい資料の収集にも努めています。しかし、保管スペースの問題や電子媒体への移行などの理由により、寄贈資料の受入は両館とも年々減っています。本館で2010年度に洋書の数が大きくなっているのは、洋製本雑誌の点検を行い、すべての資料を資産化したためです。

2006年度より学生用図書の整備のため共通経費を確保し、新刊図書の収集を安定的に行うことができるようになりました。また、必要以上の重複資料など、不用となった資料の計画的な除籍も毎年行っています。

19ページのグラフは、図書館の蔵書について〈所蔵冊数×貸出冊数×受入冊数〉ごとの分析を行ったものです。

本館の分野別所蔵冊数では、分野による所蔵のばらつきとともに、書庫内に大量の資料があることがわかります。しかし、分野別貸出冊数を見ると、利用のほぼ半数が最近5年間に受け入れられた資料で、書庫内資料の利用はごくわずかです。これは、利用頻度に応じて閲覧室と書庫の資料の入れ替えを行なうなど、適切な蔵書管理を行っている結果といえま

■ 図書受入冊数の推移



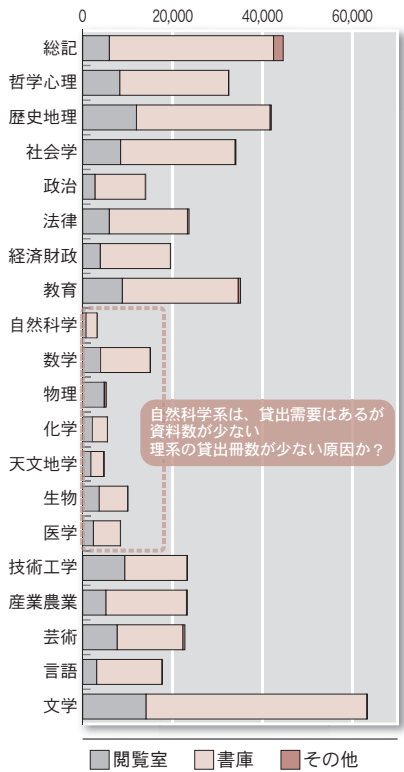
す。利用の中心となる資料は新しいものが多いことから、共通経費による学生用図書の整備は必須です。

自然科学系の蔵書数は他の分野に比べ少ないものの、利用は他の分野と同じほどあります。出版点数が少なく、特定の資料の利用が多いため一概に不足しているとは言い難い状況ですが、利用の多いものを複数冊用意するなどして、貸出冊数を伸ばす工夫はできそうです。

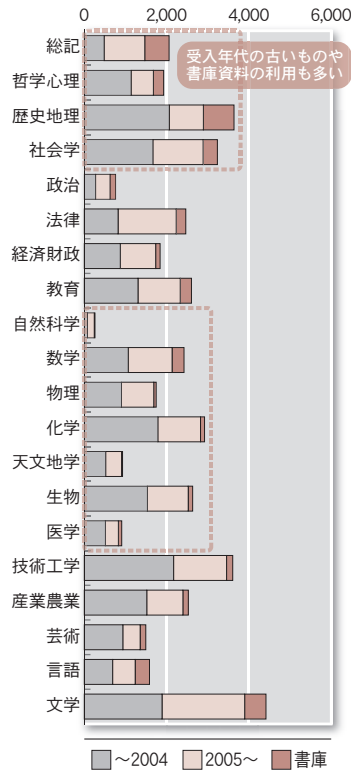
医学図書館では、臨床医学系資料の利用が非常に多く、新刊の需要が高い傾向にあります。看護学系図書は需要はあるものの、看護学科設置後10年あまりしか経っていないため、今後の整備が急がれます。

下段のグラフは、本館の閲覧室で別置されている資料について分析したものです。重点的に整備を進めてきたキャリアコーナーの資料は、高い利用を示しています。初年次教育コーナーは2010年度に新設されましたが、まだ認知度が低いせいか、効果が現れていないようです。文庫新書コーナーは受入冊数も多いですが、継続的によく利用されています。

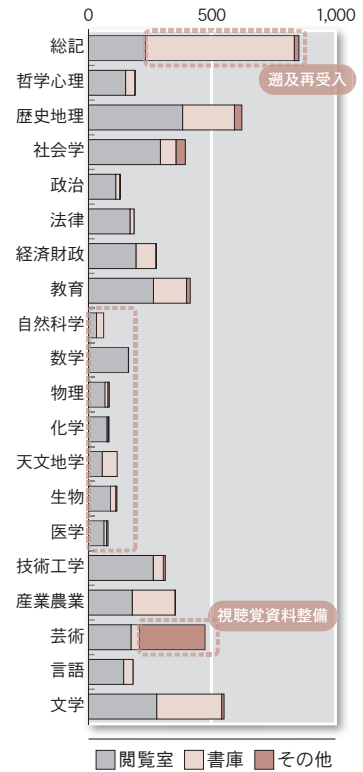
■分野別所蔵冊数(本館)



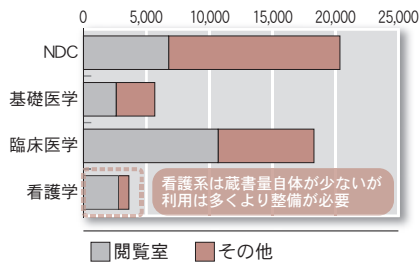
■分野別貸出冊数(本館)



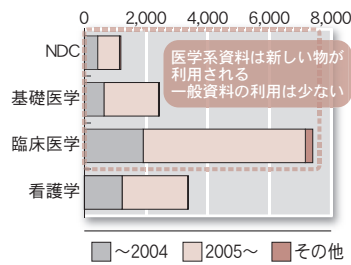
■分野別受入冊数(本館)



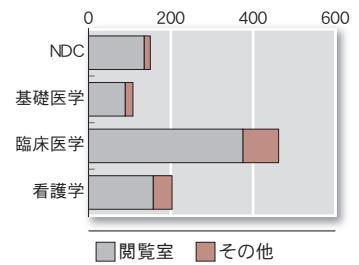
■分野別所蔵冊数(医学図書館)



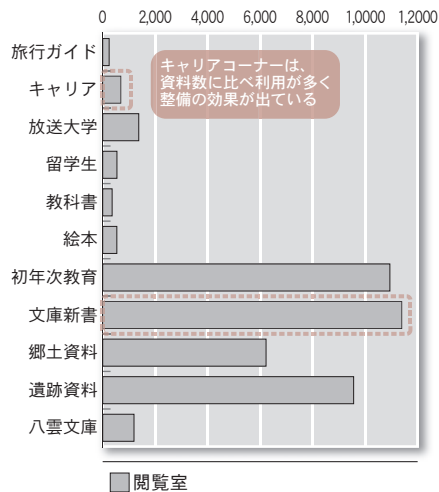
■分野別貸出冊数(医学図書館)



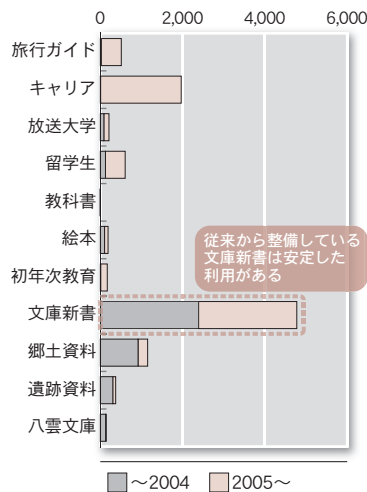
■分野別受入冊数(医学図書館)



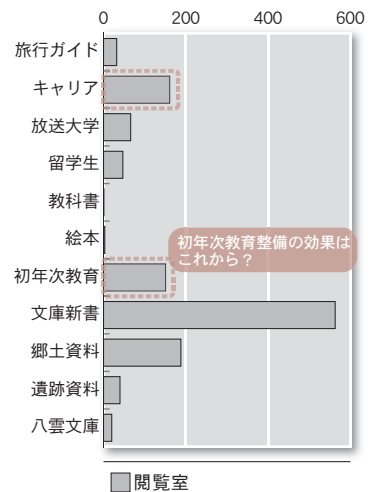
■分野別所蔵冊数(本館別置)



■分野別貸出冊数(本館別置)



■分野別受入冊数(本館別置)



統計

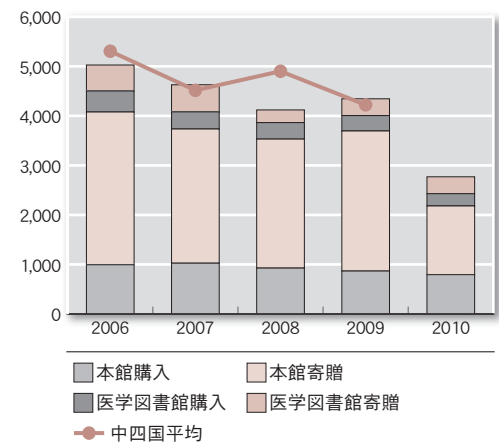
雑誌

Periodicals

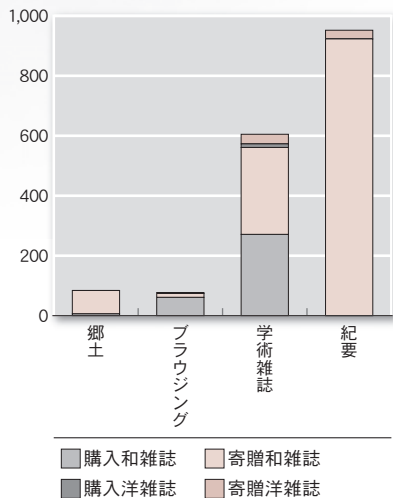
■受入種類数

		2006	2007	2008	2009	2010	
本館	和雑誌	購入	626	665	631	604	590
		寄贈・その他	2,972	2,578	2,467	2,686	1,325
	計	3,598	3,243	3,098	3,290	1,915	
	洋雑誌	購入	368	361	296	263	204
		寄贈・その他	112	131	137	142	62
	小計	4,078	3,735	3,531	3,695	2,181	
医学図書館	和雑誌	購入	218	202	191	212	181
		寄贈・その他	446	472	208	271	275
	計	664	674	399	483	456	
	洋雑誌	購入	207	144	142	99	67
		寄贈・その他	78	75	48	68	66
	小計	949	893	589	650	589	
電子ジャーナル個別タイトル		-	-	-	-	49	
合計		5,027	4,628	4,120	4,345	2,770	

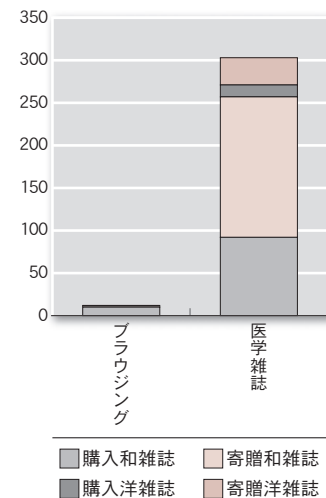
■雑誌受入種類数の推移



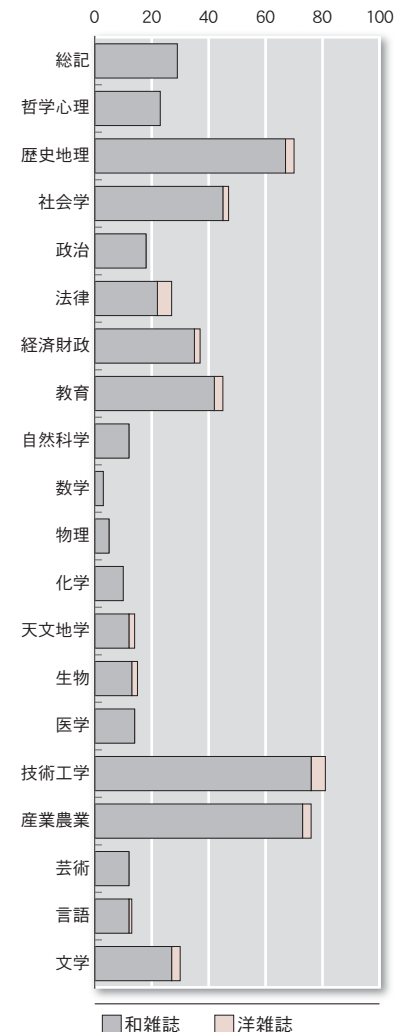
■所在別タイトル数 (本館)



■所在別タイトル数 (医学図書館)



■学術雑誌コーナー分野別タイトル数 (本館)



受入種類数は、2010年度に本館寄贈のタイトル数が半減しました。これは寄贈雑誌の受入見直しを行った結果です。特に紀要類については電子化が進んでおり、C/Niや機関リポジトリ等から直接利用が可能なものがふえたため、受入を中止したものがかなりありました。購入分については、電子ジャーナルの契約が入っていたものを見直し、電子ジャーナル個別タイトルに移しています。

学術雑誌のほとんどは学術雑誌コーナー及び医学雑誌コーナーに置かれていますが、所在別タイトル数のグラフを見ると、その約半数が学会や官公庁等からの寄贈雑誌で占められています。

学術雑誌コーナーの分野別タイトル数では、図書と同様の分野別にどのくらいのタイトルがあるかを表しています。特に自然科学系の学術雑誌が少ないのがわかります。洋雑誌は電子ジャーナルへの切り替えを進めたため、図書館では現在ほとんど受け入れていません。

電子ジャーナル

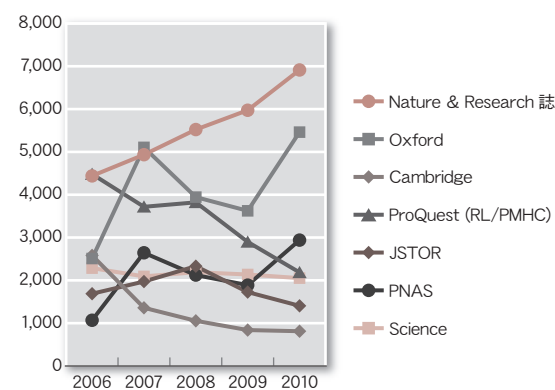
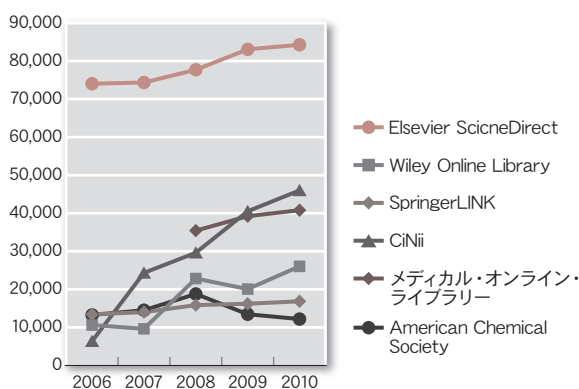
Electronic Journals

■契約タイトル数

電子ジャーナル経費(全学共通経費等)	Cambridge Online Package	231
	Cell	1
	Elsevier : ScienceDirect	2,057
	JSTOR : Arts / General Sciences *	240
	Nature & Research誌	9
	New England Journal of Medicine	1
	Oxford Online Package	165
	ProNAS	1
	ProQuest : Research Library / Health and Medical Complete *	2,800
		1,270
	Science	1
	SpringerLINK	1,800
	Wiley Online Library	1,229
	小計	9,805
部局経費	American Chemical Society (ACS)	36
	American Physical Society (APS)	8
	British Medical Journal (BMJ)	23
	IEEE : CSDL	27
	Karger	77
	Lippincott Williams and Wilkins (LWW)	100
	メディカルオンライン *	800
	PsycARTICLES	77
	Royal Society of Chemistry (RSC)	36
	その他単体	49
	小計	1,233
タイトル数合計	11,038	

*アグリゲータ系(複数出版社のタイトルを集めたパッケージ)

■主要電子ジャーナルの利用状況



■ダウンロード数の多いタイトル(Top20)

順位	タイトル	プラットフォーム	ダウンロード数
1	Journal of Biological Chemistry	JBC (HighWire Press)	6,542
2	Nature	nature.com	4,329
3	New England Journal of Medicine	New England Journal of Medicine	3,689
4	PNAS	PNAS	2,930
5	Journal of the American Chemical Society	ACS Publications	2,867
6	The Journal of Organic Chemistry	ACS Publications	2,417
7	Science	Science	2,052
8	Neurotoxicology and Teratology	ScienceDirect	1,561
9	Brain Research	ScienceDirect	1,420
10	Biochemical and Biophysical Research Communications	ScienceDirect	1,384
11	Brain Pathology	Wiley Online Library	1,216
12	Tetrahedron Letters	ScienceDirect	1,168
13	Ultrasound in Obstetrics & Gynecology	Wiley Online Library	1,081
14	Organic Letters	ACS Publications	1,021
15	Physical Review B	APS	943
16	FEBS Letters	ScienceDirect	938
17	The Lancet	ScienceDirect	878
18	Birth Defects Research Part A: Clinical and Molecular Teratology	Wiley Online Library	853
19	Tetrahedron	ScienceDirect	843
20	European Journal of Pharmacology	ScienceDirect	821

契約タイトルは、昨年から若干の入れ替えがありました。また、収録タイトル数もアグリゲータ系について変更しました。

主要電子ジャーナルの利用状況(上段)では、全般的に利用が増加しています。特にCiNiiはリテラシー講習会でもよく取り上げているため、学生の利用が多く、年々著しい伸びを示しています。主要電子ジャーナル(下段)では、Nature系の順調な伸びとは対照的に、CambridgeとProQuestの利用減少が顕著となってきています。

左の表では、利用の高い雑誌タイトルとプラットフォームを示しています。タイトルベースで見ると、プラットフォーム規模に関係なく利用の高いものがわかります。特にJBCの利用は群を抜いています。新規に全学共通経費で契約することになったNew England Journal of Medicineも利用が高い結果となりました。

統計

■図書館資料費

Expenditures for Library Materials

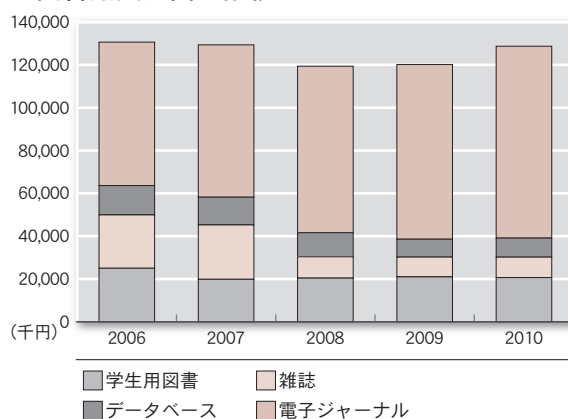
■図書館資料費

		2006	2007	2008	2009	2010
本館	学生用図書	18,427	14,745	15,203	15,651	15,376
	雑誌	8,323	8,895	6,227	5,759	5,920
	小計	26,750	23,640	21,430	21,410	21,296
医学図書館 ^{※1}	学生用図書	6,608	5,128	5,226	5,361	5,306
	雑誌	16,580	16,489	3,736	3,461	3,617
	小計	23,188	21,617	8,962	8,822	8,923
データベース		13,717	12,951	11,239	8,372	8,893
電子ジャーナル ^{※2}		66,962	71,146	77,746	81,539	89,590
合計		130,617	129,354	119,377	120,143	128,702

※1 2007年以前の医学図書館における雑誌経費については、電子ジャーナル購入にかかる部局負担分を含む。
 ※2 学術情報基盤整備計画(P.11参照)にかかる経費相当分

資料費全体の規模は維持していますが、電子ジャーナル価格の高騰が雑誌やデータベースの経費を圧迫しています。学生用図書は全学共通経費により定率化しているため、一定額を維持することができています。

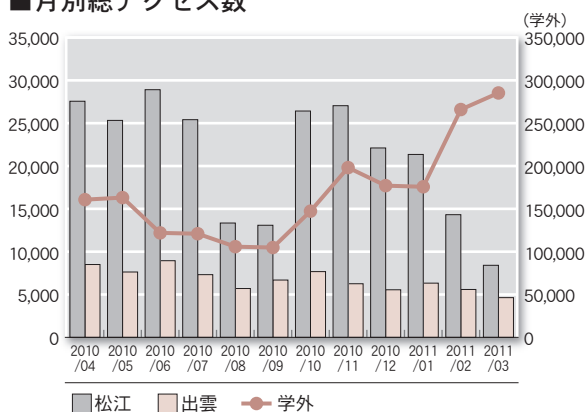
■図書館資料費の推移



■Webサービス

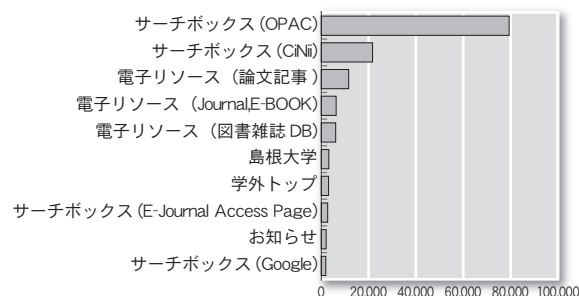
WWW menu

■月別総アクセス数

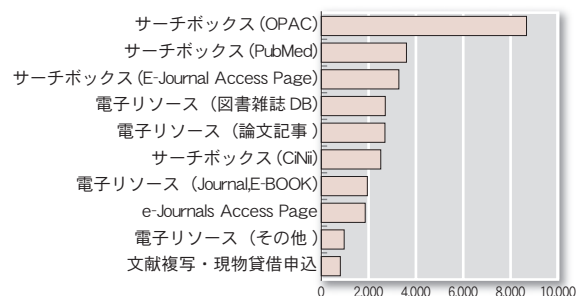


図書館ホームページの利用状況を示したものです。学内からは、休業期間中以外はよく利用されています。利用の多いメニューを見てみると、両キャンパスともトップページに配置されたサーチボックスと電子リソース(ARB)が上位を占めています。サーチボックスの中では最も利用が多いOPACに続いて、松江キャンパスでは論文検索用のCNI、出雲キャンパスではPubMedと、キャンパスの学部構成を反映した結果となっています。

■よく利用されたメニュー (松江キャンパス)



■よく利用されたメニュー (出雲キャンパス)



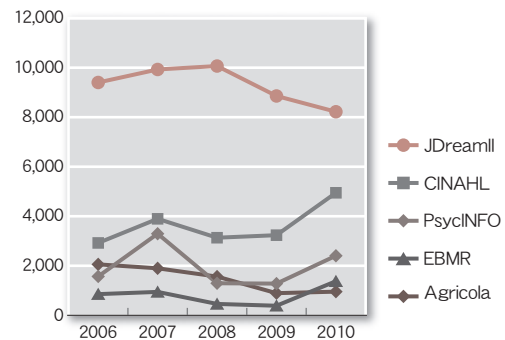
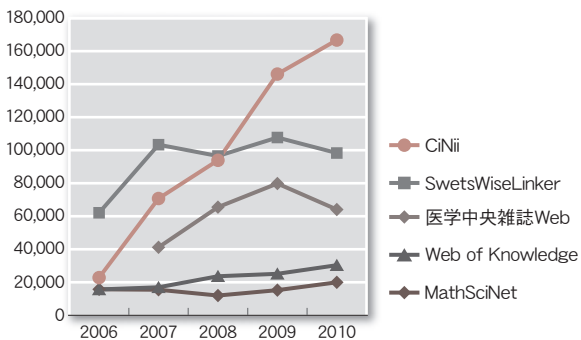
■電子リソース利用状況(ARB)

順位	松江キャンパス		出雲キャンパス	
	メニュー	アクセス数	メニュー	アクセス数
1	CiNii	2544	医中誌Web	7588
2	Web of Science	1932	PubMed	4000
3	島大OPAC	1748	メディカルオンライン	1792
4	e-Journals Access Page	1180	CINAHL (EBSCO)	797
5	日経テレコン21	923	e-Journals Access Page	652
6	朝日新聞「聞蔵II ビジュアル」	877	島大OPAC	512
7	JDreamII	755	CiNii	467
8	ジャパンナレッジ (Japan Knowledge)	603	JCR (Journal Citation Reports)	413
9	ヨミダス歴史館	492	Web of Science	400
10	Current Contents Connect	485	UpToDate	389

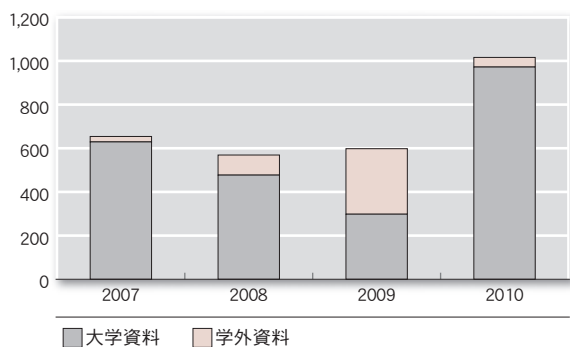
電子リソース(ARB)は、サーチボックスで利用できない有用なデータベースが利用できます。電子リソース利用状況では、両キャンパスでどのようなデータベースの利用が多いのかがわかります。出雲キャンパスでは、サーチボックスよりも電子リソースからの利用が多くなっています。

データベース検索回数の推移のグラフは、島根大学全体での検索回数を示しています。ここでもCiNiiの利用が著しく伸びているのがわかります。また、欧文誌をカバーするWeb of Knowledgeも順調な伸びを示しています。

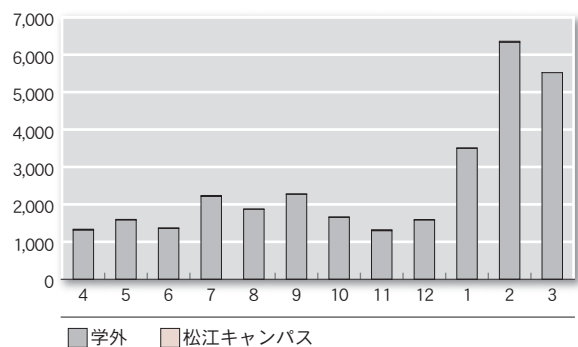
■データベース検索回数の推移



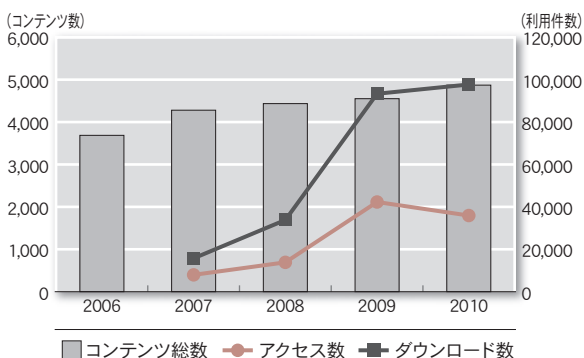
■デジタルアーカイブコンテンツ数



■月別デジタルアーカイブアクセス数



■島根大学学術情報リポジトリ



デジタルアーカイブコンテンツ数は、本学所蔵の貴重資料のほか、学外の個人や機関が所蔵する資料について、各年度ごとに電子化を行った資料の点数をグラフにしてあり、総電子化数は2,837点、156,115コマとなっています。

月別デジタルアーカイブアクセス数を見ると、学外からの利用が多い結果となっています。また、年明けからの利用の増加が見られます。

島根大学学術情報リポジトリの収録コンテンツは、順調に伸びており4,871コンテンツとなりました。アクセス数に比べダウンロード数が多いのはCiNiiやサーチエンジンからの利用が中心となるため、今年度は、97,718件ありました。

統計

相互協力

Interlibrary Lene

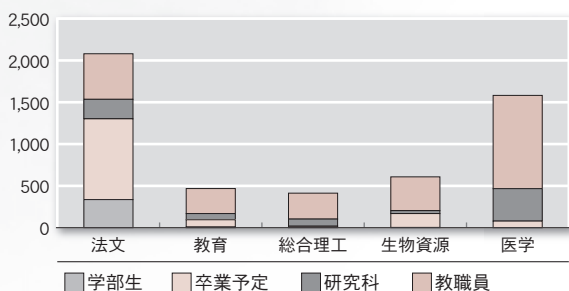
文献複写件数

		2006	2007	2008	2009	2010
本館	受付	1,539	1,263	1,260	1,469	1,243
	国内依頼	3,917	4,018	4,039	3,666	3,954
	海外依頼	26	16	25	9	12
医学図書館	受付	4,532	3,328	2,687	2,422	1,994
	国内依頼	3,789	4,062	3,190	3,303	1,950
	海外依頼	4	5	13	15	2

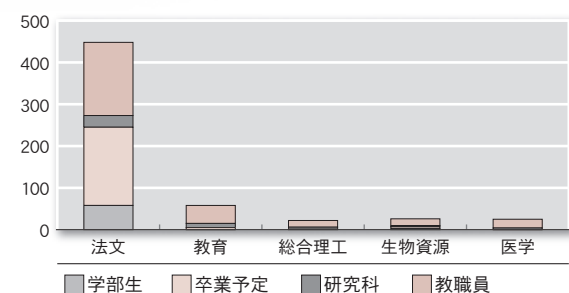
現物貸借件数

		2006	2007	2008	2009	2010
本館	貸出	218	224	219	263	250
	借受	292	332	472	535	600
医学図書館	貸出	28	26	17	9	9
	借受	14	14	24	29	21

文献複写依頼の内訳



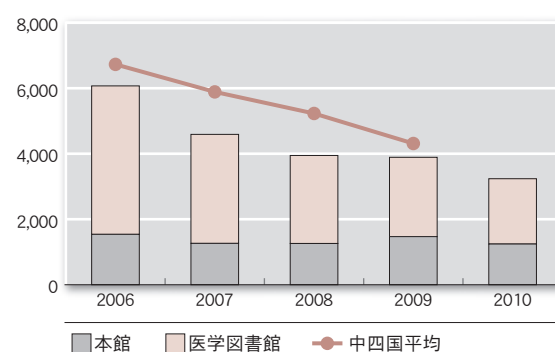
現物貸借借受の内訳



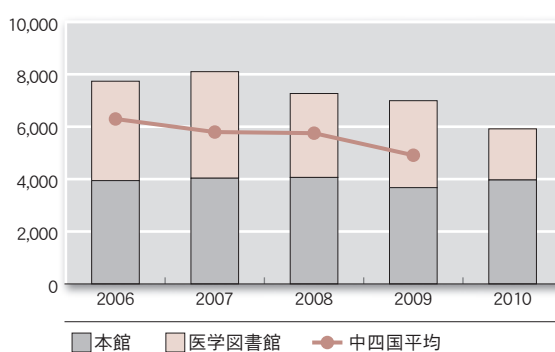
文献複写の受付、依頼件数は減少傾向にあります。電子ジャーナルや機関リポジトリなどの利用が普及してきたことの影響で、中四国平均も同様の動きを示しています。依頼の内訳では法文学部と医学部が多くなっています。人文科学系では資料の電子化が遅れており、まだまだ紙の資料が中心であることや、分野によっては電子ジャーナル等が十分利用できないことなどが考えられます。

現物貸借の借受件数は年々増加傾向にあります。内訳を見ると、ほとんどが本館の法文学部であることがわかります。WebCatやNDL-OPACの普及により情報の入手が容易になったという背景はありますが、必要な資料が本学に十分揃っていないということでもあります。資料によっては入手困難なものもあるため、今後もこの傾向が続く可能性があります。

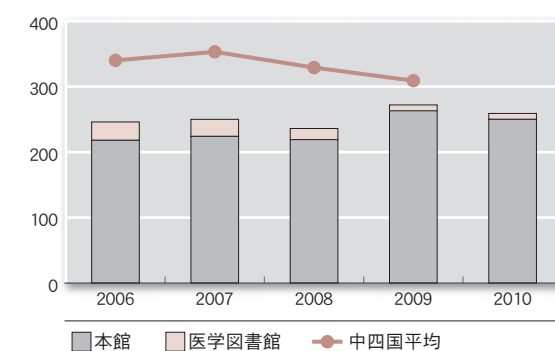
文献複写受付(提供)件数の推移



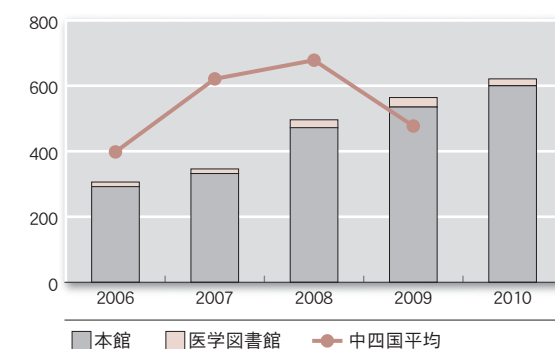
文献複写依頼(取寄)件数の推移



現物貸借貸出件数の推移



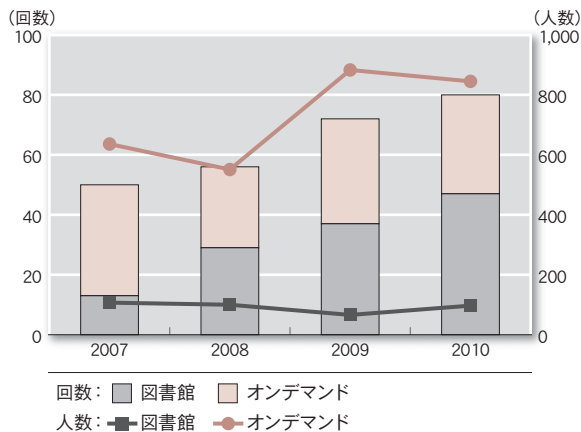
現物貸借借受件数の推移



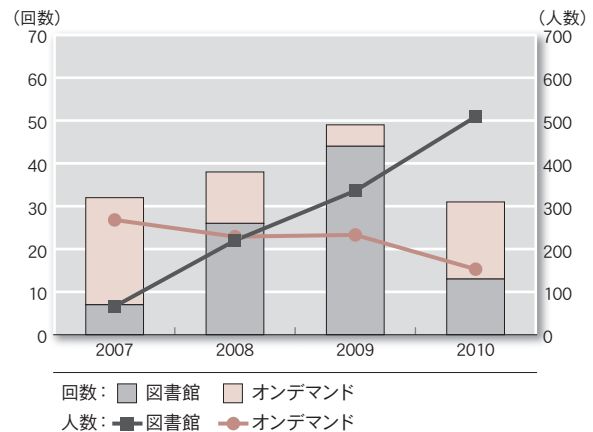
■ 学術情報リテラシー講習会

			2007	2008	2009	2010
本館	図書館主催	回数	13	29	37	47
		参加者数	107	100	66	97
	オンデマンド	回数	37	27	35	33
		参加者数	636	551	883	845
医学図書館	図書館主催	回数	7	26	44	13
		参加者数	66	220	336	509
	オンデマンド	回数	25	12	5	18
		参加者数	268	229	233	153
参加総数			1,077	1,100	1,518	1,604

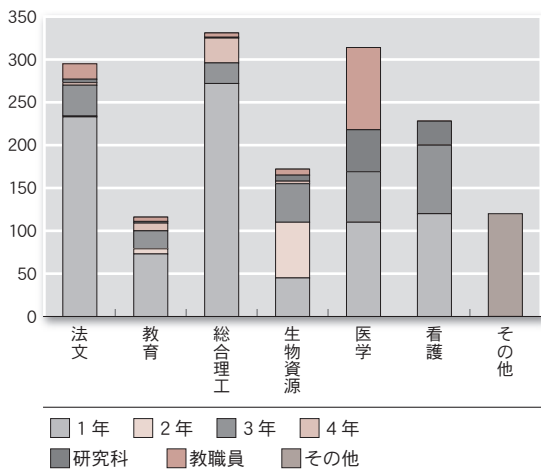
■ 本館講習会開催状況



■ 医学図書館講習会開催状況



■ 講習会参加者内訳



本館と医学図書館では、学術情報リテラシー講習会の開催方法や内容が異なります。本館では図書館主催のものが多く、内容も多様になり年々充実してきていますが、日時や内容が限定されるためか、参加者が集まりにくいのが現状です。開催方法や内容の見直しが必要かもしれません。一方、オンデマンド講習会(授業と連動した講習会)は横ばい状態です。一部の授業においては定着してきているので、今後はさらに新たな申し込みを増やしていくことが課題です。

医学図書館では、図書館主催の回数が大幅に減少したものの、参加人数は年々大きく伸びています。また、オンデマンド講習会も回数が増えつつあり、利用者の関心が高く、需要が多いことがうかがえます。

参加者の内訳を見ると、法文学部、総合理工学部、医学部の参加が多くなっています。また、基本的な情報が必要な1年生と、専門分野に分かれ論文検索などの知識が必要になる3年生での参加が多くなっているようです。講習会では、1年生は図書館ツアー、OPACや図書館の利用方法などを中心とした内容を、2年生以上では各分野に応じたデータベースの利用方法を中心とした内容で実施しています。

図書館日誌

図書館日誌 (2010.4～2011.3)

	共通・松江キャンパス (本館)	出雲キャンパス (医学図書館)
4月 1日	初年次教育・授業関連図書コーナーオープン	医学図書館と改称
19日	学生による学習成果展示「七色八雲」(6月13日まで)	
26日	第1回附属図書館運営委員会	
27日	不用雑誌無料提供会(28日まで)	
5月14日	図書館マスコットキャラクター愛称決定	
16日	第2回まちなか大学祭 古本市(図書の提供)	
19日	新任教員図書館ガイダンス	
26日		第1回医学図書館運営委員会
6月 9日	第2回附属図書館運営委員会	
23日	学生選書ツアー	
30日		看護学科 演習・実習コーナーオープン
7月 7日	第1回選書会(8日まで) 七夕飾り設置(27日まで)	
13日	館内展示「始まりは旧制松高」(11月23日まで)	
8月 4日	環境整備	オープンキャンパス
30日	インターンシップで1名を受入(9月1日まで)	
9月 3日	「ふくろうくん」による史料の燻蒸処理	
14日		第19回島根県医療関係機関等図書館(室)懇談会(医図懇)総会
16日	島根県大学・高等専門学校図書館協議会職員研修会 (会場:島根県立大学・浜田)(17日まで)	
30日	中学生職場体験で2名を受入(10月1日まで)	
10月18日	図書館コンシェルジュ活動開始	
29日	第6回蔵書リユース市(31日まで)	
30日		企画展示・講演会「異国からみたニッポン」(展示会は31日まで)
11月16日	中四国地区国立大学貴重資料パネル展示 (会場:岡山市デジタルミュージアム 28日まで)	
17日	企画展示会「出雲・石見の人々と近世文学」(23日まで)	
30日	第3回附属図書館運営委員会 「世界の子ども笑顔」写真展(2月7日まで)	
12月 7日		第7回島根県病院図書室セミナー
15日	第2回選書会(16日まで)	
17日	全国遺跡資料リポジトリ・オープンカンファレンス (会場:大阪大学)	第2回医学図書館運営委員会
1月25日	第4回附属図書館運営委員会	
2月22日	DRFtech Shinjiko	
3月 3日	『ニューオーリンズとラフカディオ・ハーン』刊行	
7日		蔵書点検(11日まで)
15日	図書出版記者会見 館内展示「<死者たちの町>ニューオーリンズとラフカディオ・ハーン」(6月5日まで)	
22日	蔵書点検(25日まで)	

刊行物

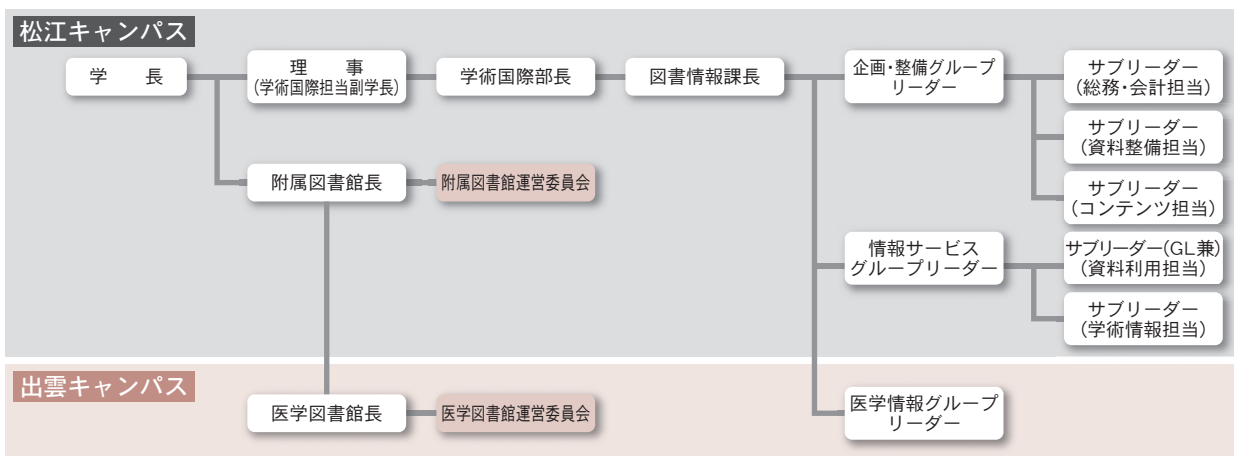
2010年 6月	本館利用案内(英語版)
7月	島根大学附属図書館年報2009 A4判、28P.
10月	展示会パンフレット「西東文庫 - 「西洋から見た日本研究」貴重コレクション -」
2011年 2月	図書館報「沁雲」第11号 A4判、20p. 特集:学生が学び育つ図書館をめざして ほか
3月	『ニューオーリンズとラフカディオ・ハーン - 「死者たちの町」が生む文化混淆の想像力 -』
3月	利用案内2011(本館、医学図書館)
月刊	本館ニュース「LiMe:ライム」(No.9~No.20)
月刊	医学図書館ニュース「インフォ・アクセス」(Vol.6 No.4~Vol.7 No.2)

新聞等で報道された附属図書館

2010年11月17日	企画展示会「出雲・石見の人々と近世文学」	NHKテレビ放映
19日	同上	中国新聞
2011年 2月 7日	全国遺跡資料リポジトリ・オープンカンファレンス	文教ニュース No.2123
3月24日	ハーン関連図書出版	島根日日新聞

組織

【2011(平成23)年 1月改正】



人事異動

【2010(平成22)年 4月 1日 発令】

氏名	異動後	異動前
板谷 茂	学術国際部図書館情報課長	山口大学情報環境部学術情報課長
錦 織 亜希子	採用 学術国際部図書館情報課係員(情報サービスG資料利用担当)	
加本 純 夫	学術国際部図書館情報課再雇用職員(医学情報G総務・整備担当)	学術国際部図書館情報課専門員
飯田 啓子	// (企画・整備Gコンテンツ担当)	学術国際部図書館情報課係長(医学情報G総務・整備担当)
吉井 紀子	医学部総務課再雇用職員	// (情報サービスG学術情報担当)

【6月30日 発令】

氏名	異動後	異動前
松浦 めぐみ	退職	学術国際部図書館情報課主任(医学情報G総務・整備担当)

【7月1日 発令】

氏名	異動後	異動前
大瀧 博久	学術国際部図書館情報課専門員	学術国際部図書館情報課係長(医学情報GL)
昌子 喜信	学術国際部図書館情報課係長(企画・整備GL)	// (情報サービスG資料利用担当)
小豆澤 悦子	// (情報サービスG資料利用担当)	// (企画・整備G資料整備担当)
園山 典子	// (情報サービスG学術情報担当)	学術国際部図書館情報課主任(情報サービスG資料利用担当)
山崎 月子	// (企画・整備G資料整備担当)	// (医学情報Gサービス担当)
中井 陽子	学術国際部図書館情報課係員(医学情報G総務・整備担当)	学術国際部図書館情報課係員(企画・整備Gコンテンツ担当)

【12月31日 発令】

氏名	異動後	異動前
大瀧 博久	退職	学術国際部図書館情報課専門員

【2011(平成23)年1月1日 発令】

氏名	異動後	異動前
葛原 克子	学術国際部図書館情報課係長(医学情報GL)	学術国際部図書館情報課係長(医学情報Gサービス担当)
吉井 紀子	学術国際部図書館情報課再雇用職員(医学情報G)	医学部総務課再雇用職員

【3月31日 発令】

氏名	異動後	異動前
平川 正人	総合理工学部教授(附属図書館長兼務の終了)	総合理工学部教授/附属図書館長(兼務)



SHIMANE
UNIVERSITY LIBRARY
Annual Report
2010

島根大学附属図書館年報

2011年(平成23年)7月発行

発行/島根大学附属図書館

本館/〒690-8504 松江市西川津町1060 TEL 0852-32-6083 FAX 32-6089
医学図書館/〒693-8501 出雲市塩冶町89-1 TEL 0853-20-2092 FAX 20-2095